**研究課題**：女性付属器疾患による急性腹症の後方視的観察研究

1. **研究の目的**

卵巣捻転は小児急性腹症の約2.7％を占めると報告されています。症状は非特異的なことが多く、診断が遅れることもあり、そのような場合は卵巣摘出や付属器切除を余儀なくされることもあります。当院で経験した女性付属器疾患による急性腹症を後方視的に調査し、その臨床的特徴や予後について検討します。

1. **研究の方法**

当院で2021年９月までに女性付属器疾患による急性腹症で診断治療された患者様が対象となります。診療録から、発症年齢、症状、検査所見、手術所見、予後等の情報を調べまとめます。

1. **研究期間**

倫理委員会で承認された後から2022年3月まで。

1. **研究に用いる資料・情報の種類**

診療録、手術記載、検査結果、画像所見等を調べまとめます。画像検査や血液検査の結果（個人情報を一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

1. **外部への資料・情報の提供、研究成果の公表**

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

1. **研究組織**

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構　埼玉県立小児医療センター

研究責任者：所属 外科 　科長兼副部長　　川嶋　寛

研究分担者：所属 外科 　医長　　　　　　追木　宏宣

1. **お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先**

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、２０２１年１２月３１日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表048-601-2200）